20seconds

“すれ違い”をデザインする

Problem Part　1000人以上とすれ違う毎日

私たちは郊外で 100 人、都市では 1000 人以上の人々と「すれ違っている」。でも、その大半は繋がらない。たとえ目が合っても、言葉を交わすことはほとんどない。見えない境界が、すでに始まっていた出会いをなかったことにしてしまうのだ。

Concept　こっちとあっちを繋ぐ 20 秒

「すれ違い」をデザインするために、タイニーハウスを道に変える。この道は、日本中どこにでも引けるし、世界の街角にも現れる。視覚的に、空間的に、「こっち」と「あっち」を繋ぐ。通り抜けるのにかかるのは、毎日の 20 秒。その間に、人は自然と出会い、誰かと目を合わせ、顔見知りになり、世界との繋がりを見つけていく。

Support Plan　自然の中を通り抜ける

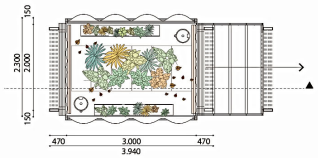
この約 20m の小さな道は、移動販売のお花屋さん。通り抜ける 20 秒で、ふと植物の香りに気づいたり、葉っぱの変化を感じたりする。日々見逃していた季節の揺らぎや、生き物の気配に出会える場所。入るときより、出るとき、ほんの少しだけ世界と繋がっている。そんなタイニーハウスを提案する。

Memorandum　自然を介して「人と人」が繋がる

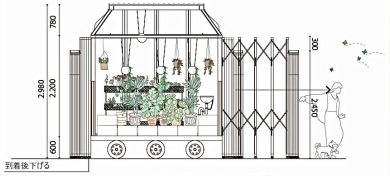
私たちは手ざわりのある世界に触れ、誰かと「繋がる」ことが少なくなっている。植物は、人と人のあいだのクッション。お花屋さんは、そんな関係性を生み出す大切な存在。でも、お花屋さんにはなんだか入りづらい。だからこそ、ここは「ただ通るだけでいい」場所。それでも、きっと何かが変わる。

経営要素	従来	提案
費　用	高額なテナント家賃	初期投資は小さく、土地に縛られず家賃不要
立地依存性	人通りのある場所を確保する必要あり	花屋自体が「道」になり、人の流れに接続できる
集客難易度	入店ハードルが高く、偶然の顧客が少ない	通行空間に開かれており、「通るだけでOK」
市場拡張	商圏が店舗周辺に限定されがち	移動可能＝その土地の植物と文化を取り込める

Design　移動をデザインする



Floor plan(scale:1/120)
運搬モード

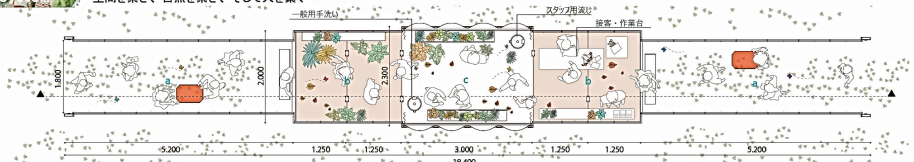


Cross section(scale:1/120)
運搬モード

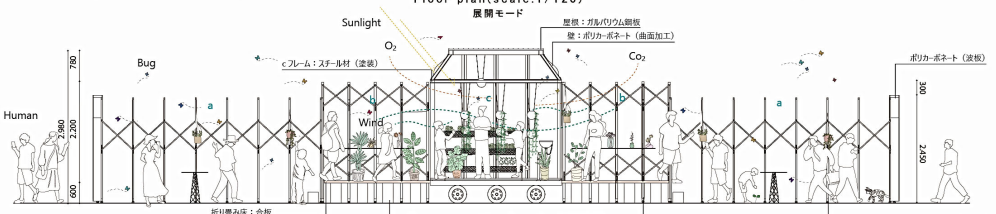
大きい車って周りからはちょっとストレス。「毎日の 20 秒」は、ぎゅっと折り畳んで運べる。みずみずしい葉や鮮やかな花びらが詰まった、まるで「花束」のような透明な箱。それが、日本中を、世界中を、軽やかに駆け巡る。

※軽床シャーシの応用

Scenario　空間を繋ぎ、自然を繋ぎ、そして人を繋ぐ



Floor plan(scale:1/120)
展開モード



Cross section(scale:1/120)
展開モード

タイニーハウスは道路運送車両法によってサイズに制限があるため、どうしても横長で、少し閉鎖的な空間になってしまう。その物理的・心理的な障壁を取り除く鍵となるのが、「4m から 20m へ」という空間の展開である。この展開によって、もっと横長に、すると何もなかった街の一角に、「こっち」と「あっち」の繋がりを可視化する “道” が立ち現れる。その道の中には、以下のようなゾーンが構成されている。

【a. ローカルゾーン】ここでは、その土地に根ざす植物や自然を取り込み、ふだん気づかなかった小さな世界が静かに浮かび上がる。訪れる人々は、地域の環境と繋がる入口としてこの空間に触れる。

【b. テラスゾーン】屋外に開かれた中間的な空間。ここでは人々が植物の香りや風にふかれながら、視線や会話を自然に交わすことができる。一時的な「居場所」であり、「すれ違い」が「出会い」へと変わるきっかけが育まれる。

【c. 温室ゾーン】外界との境界がぼんやりとした半透明の室内には、ゆるやかに光が差し込み、植物が呼吸をしている。この中で、20 秒という短い通過時間が、誰かとの関係を芽吹かせるための「余白」となる。そして、このタイニーハウスがある街に移動した自然は、その土地の太陽を浴び、光合成を行いながら、静かにその地域と一体化していく。